守ろう、絶対。

モロッコ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

守ろう、絶対。

【コード】

N00400

【作者名】

モロツコ

【あらすじ】

今回もオオカミさんシリーズです^^

今回は路線を変えてリスト×アリスで行こうかと思えます。

口調は…『僕』がリストで『私』がアリスです。

相にも変わらず駄文づくしですが、お付き合い願います。

（前書き）

あらすじの通り、今回はリスアリで頑張ってみます。
駄文ですが、お付き合い願います。

恋って難しいと思う。

自分がどれだけ好きだったとしても、相手がそう思っていないければ恋は永遠に実らない。

恋って大変だと思う。

どれだけ実っても、その心が続かないと永遠に関係が変わらない。

『本当に恋とは、気難しい。』

「アリス君？ちょっと空いていたりするかい？」

それは通り雨が降り始めた、ある放課後のこと。

僕は、ある一つのことを決めたんだ。

「?いいですけど。」

いつも通りの表情なはずなのに、どことなく彼の表情は堅く見えた。なんだろうと思いつながら、私は了承した。

「どうしたんですか?こんな所に呼び出して。」

私達は今、御伽銀行地下本店内にあるとある客間にいる。

頭取…もとிரりつくんが私を呼び出したのだ。

「ん…知りたい？」

「じらさないでください。というか、二人の時くらいはその口調、止めてもらえますか？」

「そうだね。それならアリスちゃんもその堅苦しい口調は、やめようよ。」

「うめん…」

「そんな顔しないで。いつも通りのアリスちゃんでいて。」

「うん…」

アリスちゃんがあまりにもかわいそうでかわいい表情をしていたので、思わず体が勝手に動いてしまった。

アリスちゃんのことを、僕は抱きしめていた。

「え…／／／」

突然のこと過ぎて、何が起きているのか分からなかった。

どうして…どうしてりつくんは私のことを抱きしめているの…？

「驚いたかな？驚いたならごめん。」

「え…いや…その…／／／」

びっくりしてるアリスちゃんは販促的な表情を浮かべていて、僕の

理性を抑えるのが精一杯だった。
そのくらい、アリスちゃんは可愛いんだ。

「そ、それで…話って…？」

りつくくんが突然抱きしめてきて驚いてしばらくしどろもどろだったけど、何とか落ち着いて今回の主旨について聞いてみることにした。こうでもしないと、私の溢れそうな気持に歯止めが利きそうになかったから…

「話って言うほどでもないんだけど…」

アリスちゃん、昔の約束は覚えているかい？」

「約束…？」

「そう、遠い昔の約束。」

いつも通りのアリスちゃんに戻ったところを見計らって、今回の話の内容を切り出した。

「りつくくんが言った時のこと…？」

「うん。覚えてるかなあ…って。」

あまりにも真剣そうな顔で言うもんだから、何の話かと思ったら…そんなことだったのか…

「そんなこと、たくさんあるじゃない。」

「そうじゃないんだよ。」

「一つ、二人で約束したじゃないか。」

「約束した…こと…?」

「忘れちゃったかな…?」

「言いたくないけど、僕らが小学生だった時のこと」

「あっ!」

ようやく思い出してくれた。

これでようやく、本題に盛り込めるや。

「あの約束、どうにも果たせそうになくてね…」

「…え?」

「ずっと、友達にはなれそうにないんだ。」

「そ、それってまさか…//」

私は最後の言葉を言いきることができなかった。

りつくんが私に、その…き、キスしてきた…から…

「アリスちゃんといったら友達以上の関係になっちゃいそうなんだよ…」

「それって…」

「アリスちゃん。これからずっと、僕の隣にいてくれるかい?」

「…もちろん／＼／」

僕、いやちがうね。

僕らの恋は今、こうして実った。

しかし、恋は気まぐれだから、いつ去ってしまうか分からない。

「……………ずっと友達でいてくれる? ……」

「…アリスちゃんが望むならいつまでだって一緒にいてあげるし、どんな怖いことがあっても守ってあげる」

でも私達には、新しい約束ができた。

今日から、新しい約束事に塗り替えましょう。

「アリスちゃん、僕の隣でずっと笑っていてくれるかい?」

「もちろんだよ、りっくん。」

りっくんも私のことを守ってくれる?」

「それはもちろんだよ。」

小さく微笑み、二人はそつと口付けた。

この約束を、一生守るために

(後書き)

どうでしたか？

なにかありましたら、感想等、お願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0040o/>

守ろう、絶対。

2010年11月23日01時10分発行